

第166回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成31年4月

日時: 2019年4月26日(金) 16:00-17:30

場所: 神奈川大学 24号館 310号室

◆主催: 防災塾・だるま

司会: 田中喜世美 記録: 紅林敏行

◆談義の会参加者: 会員24名(含む講師)

一般6名(含む学生5名) 計30名 (敬称略)



田中さん(司会)



赤嶺さん(講師)



講演の風景



荏本塾長(挨拶)

話題: 『老練船長が語る「訓練で学ぶ防災・減災」』 ~訓練の大切さ~

講師: 赤嶺 正治氏 (一社)横浜海洋福祉協会副会長、大島商船高等専門学校客員教授、だるま会員

1973年、第4次中東戦争勃発時、乗っていた船がソマリア共和国の港で被弾炎上。火災、浸水、船体傾斜など最悪の状況に遭遇しながらも乗組員全員が無事に帰国できた体験等を貴重な映像、写真をまじえながら紹介し、演習・訓練の大切さを解り易く講演。また、東日本大震災での船舶による物流支援、海洋地球研究船『みらい』の海洋観測航海で体験した地球環境の変化についても講演。
<参考> 関野三彦編著『山城丸炎上-あれから20年-』(関西図書出版1993年)

◆船の中の乗組員の組織・・・肩章により明示

船長をトップに、機関長、一等航海士、二等航海士・・・

◆SMS (Safety Management System)安全管理システム

船舶会社は、船舶の安全航行及び汚染防止のための国際安全管理コード (ISM CODE)により安全管理システムの構築を義務付けられている。
衝突、座礁、火災、機関損傷等の典型的な海難事故、重大な人身事故、並びに油流出等の環境汚染事故が発生した場合を想定し、陸上・船上の組織がとるべき緊急対応措置・手順を予め定めている。これらの緊急対応措置・手順が緊急時に関係者によってよく実行されることを確保するために、**陸上・船上において適切な演習・訓練**を行う。

<参考>日本郵船HP>CSR>安全>海での取組み

<https://www.nyk.com/csr/safety/sea/>

◆『山城丸』被弾炎上(1973年10月)

○日本郵船所属の貨物船『山城丸』。

(岡野三彦船長乗務員37人、1万ト、20ノット)

○二等航海士として山城丸に乗船。第四次中東戦争勃発時、ソマリアの港にて、出港許可待ちの時に、イスラームの対空砲を受け、火災発生。砲弾が飛び交う、船長の指示のもと、消火班長として乗組員と共に決死の消火活動にあたる。

(市毛威船医手記:「この作業は筆舌に尽くせぬもので、猛煙の中に入り込むのはただでさえ難事である上・・・有毒ガス、爆発による足場の危険、人手不足のための長時間作業になる疲労を考えれば、・・・乗組員の作業は超人的作業と称えられてしかるべきもの」)

機関室の浸水により発電機、配電盤が駄目になり、船上消火を断念し、船長を含む乗組員全員、救命艇で山城丸を離れた。その後現地のソマリア消防隊員と共に消火機能をもつカボットに同乗して山城丸に引き返し、放水、消火活動をするが、消火不能となり、船長がバツグン(放棄)を決断。

船長含め乗組員全員、陸上の収容場所の村に移る。船長は最短距離で川に脱出するルートを決め、乗組員全員、バスで脱出。途中砲撃や空襲に遭うことなく無事川国境に到着し、その後日本に帰国できた。

○誰ひとり怪我することなく船長以下、乗組員37名全員が無事に帰国することができたのは、船という限られた社会の中で、秩序が守られていたこと、チームとリーダーの役割が

《右枠上に続く》

《左枠下から続く》

明確に決められていたこと、船長の的確な判断、そしてそれを支援する周囲の体制が整っていたこと、乗組員全員が沉着冷静な行動を取り、日頃の訓練の成果を十分に発揮したことなどによるもの。

◆災害時船舶は輸送等で貢献できる!

《東日本大震災での船舶による物流支援》

○緊急物資輸送のための航路等啓蒙。

(水中の障害物を取り除いて船が航行できるようにする。)

3/15から3/24にかけて釜石港等の14港での船舶輸送を可能に。

広域防災拠点を活用し、室蘭港から緊急物資、燃料油等を大船渡港、相馬港へ輸送。その後相馬港で臨時係留施設として利用。

○自衛隊、警察、消防等の要員・車両等の緊急輸送。

○カガ、一般貨物船等による緊急物資・車両等の輸送。

○官公庁船や船員教育機関練習船等による緊急物資・人の輸送、食事・宿泊の提供、入浴支援、医療支援等。

○日本郵船、商船三井、川崎汽船による外国からの支援物資の無償輸送及び支援。

<参考>国土交通省HP大規模災害時の船舶の活用等に関する調査検討会報告

<http://www.mlit.go.jp/common/001030664.pdf>

◆地球温暖化等により地球環境は変化している!

《参考》JAMSTEC HP 海洋地球研究船『みらい』

<http://www.jamstec.go.jp/j/about/equipment/ships/mirai.html>

北極の海水減少。氷と共に生きているクマ、セイウチ等も大変な状況下にある。見つけたクマははやせていた。

寄港した南の島々では海氷面上昇で深刻な状況に。

◆船の中では「グローバル!」

船員教育の際に「国境を持つてはいけない」と伝えている。

コミュニケーションの場が大事。共通の問題意識があれば伝わる。

◆被災地での水の確保の問題

折畳式大容量の清水輸送・給水バッグを提案。

平時、35cm×40cm×16cmのダブルボックスに収納。満水時500mlのダブルボックス700本分

相当の容量に(軽トラックの最大積載量)。バッグ上部の

ダブルボックス開閉のみで必要な時に必要な量を

動力なしに給水(排水)できる。(参照:右の写真)



●次回(第167回)案内

・日時:2019年5月24日(金) 16時~18時00分

・会場:桜木町びおティ6階さくらビル 第1研修室

・話題:『平成の地震災害対策を振り返って』

・講師: 杉原英和氏(一社)神奈川県建設業協会事業部長 (元神奈川県総合防災センター所長・消防学校長)